

【南区】令和2年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和2年6月9日（火） 午後3時～4時
場 所	南区役所7階 701・702会議室
出席者	<p>【座 長】 荒木由美子議員</p> <p>【議 員：3名】 遊佐大輔議員、渋谷健議員、仁田昌寿議員</p> <p>【南 区：24名】 松山弘子区長、富井孝副区長、 野崎直彦福祉保健センター長、 永木宏一郎福祉保健センター担当部長、 角野智史土木事務所長、小出健消防署長（災害対策担当部長）ほか関係職員</p>
議 題	令和2年度 個性ある区づくり推進費 執行計画等について
発 言 の 要 旨	<p>【遊佐議員】 廃棄物の件ですが、自宅で過ごされる方が増えて、家庭ごみも増えたという新聞記事を目にしましたが、家庭から出るごみの中に、感染した人の物が含まれていて、収集する職員に危険な状況もあると思います。一方で、資源集団回収が今までとは違う形になりますし、レジ袋の有料化も始まるということで、今がちょうど転換期と思っています。収集の安全性の問題やシステムが変わるということについて、積極的にアナウンスしてもらいたいですし、職員の方も命の危険を感じながら、ごみを回収されていると思いますので、それに対するアイデアなどを教えてもらえれば、議会でも発言していきたいと思えます。</p> <p>【須賀資源化推進担当課長】 ご質問のとおり、在宅者が増えたことにより、当初は片づけごみが増えていたのですが、その後、外出禁止令に近いような状況になったことで、年末と匹敵するぐらいの極端な量の家庭ごみが出る状況がずっと続きました。その中で、廃棄物によって感染することを職員も大変心配していましたので、マスクを着用するとともに、市民の皆様には、ごみ袋が破裂しないよう、ごみ袋からできるだけ水や空気を抜いて排出していただくようお願いをしております。</p> <p>また、今は通常に戻ったのですが、職員の体制も1班・2班というようにグループ分けしまして、時差出勤を行いました。どちらかのグループが感染しても、濃厚接触者として全滅するのを避けるために、そのような体制を執らせていただきました。</p> <p>【遊佐議員】 ありがとうございます。今後レジ袋が有料になると、皆さん、袋にごみをパンパンに詰め込むことが想定されるのではないかと懸念をしています。だから、できるだけ空気を抜いて、きちんと縛ってごみを出してください</p>

ということだと思しますので、どういう方法でアナウンスができるかわかりませんが、パンフレットなどを作ればいいのではと思います。資源循環局にも掛け合ってみますが、何かお知恵があれば教えていただけるとありがたいと思しますので、よろしくお願いします。以上です。

【仁田議員】

何点か確認と質問をしたいと思います。

まず、6ページの減災推進事業ですが、現在のようなコロナ対応の中での大きな課題としては、もし、この瞬間に大きな地震が起きた時に、地域防災拠点が円滑な運営ができるのかということだと思います。地域防災拠点に行っても、密になるのが心配だという声もあるので、自助に対する啓発や取組はますます大事なことはないかと思います。したがって、防災啓発事業や自助・共助の支援事業は、とても大事な事業だと思いますが、当初に予算立てをしたときから、少なくともこの1年は、大きく注目をしなければならぬと思います。その点については、どのようにお考えか伺います。

【森田総務課長】

どうもありがとうございます。先生おっしゃったように、災害があった時には、避難場所が密になってしまうという心配がございます。発災時、もし避難場所に健康状態の悪い方がいらっしゃった場合には、健康状態を確認したうえで、他の避難者の方と接触を避けるようにするなど、できるだけスペースを別に設けることが必要になると思えますし、基本的な感染症対策のための手洗いや、咳エチケット、換気、清掃等も当然必要となります。また、避難に関しても、必ずしも避難場所に避難しなければならないということではなく、親戚や友人宅等への避難、あるいは自宅がそれほど危険でなければ、垂直避難をするなど、避難の仕方について、もう一度、ご家族で考えてくださいという広報や啓発も必要になってくると思っております。市のホームページでも、そういった広報を行っていますし、併せて、避難する際の非常持出し品に、マスクや体温計を含めてくださいという啓発もしておりますので、今後、区で啓発の冊子等を作る時にも、必ずそういう趣旨の啓発をしていきたいと思っております。

【仁田議員】

その点をしっかり強調した取組をお願いしたいと思います。

新規事業である感震ブレーカーの設置助成で一点確認ですが、補助予定件数が400件となっておりますが、これは、危機管理室が重点対策地域に対して、今年度拡充した事業と、どのような関係になっているのでしょうか。

【森田総務課長】

南区が行っている感震ブレーカーの購入設置補助は、市の助成を受けた自治会町内会が対象になりますので、基本的には市の基準と同じです。

発 言 の 旨 要

発 言 の 旨

【仁田議員】

わかりました。局の補助を受けたところへの上乗せということですね。局は、重点地域に関して個人でも申込が可能になりましたが、それはどうなるのでしょうか。

【森田総務課長】

今回、南区は新たに市の制度に上乗せの補助をしますが、市が新規に行う個人対象については、含まれてはおりません。今後の検討になるかと思っています。

【仁田議員】

最後に、地域防災拠点の運営強化事業や災害医療体制強化事業ですが、そこでは、密という問題を考えると、体育館だけではスペースが足りなくなるということが出てくるかと思っています。どのように対応していくのか、色々とシミュレーションすることが必要だと思いますので是非ご検討いただきたいと思っています。

先ほども申し上げましたが、いわゆる3密を避けることや、感染症対策に必要な物については、大事な視点ではないかなと思っています。そのような提案をさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

【森田総務課長】

ありがとうございます。参考とさせていただきます。今後予算の中で反映できるように、色々知恵を絞って、より実態に即した減災対策ができるように考えていきたいと思っています。先生方ともご相談させていただきますので、よろしく願いいたします。

【仁田議員】

ありがとうございます。ここで終わりにしますが、視点としては、地域ではなかなか揃えにくいような物などについて、併せてご考慮いただければありがたいと思いますので、是非、前向きな検討をお願いしたいと思います。以上です。

【渋谷議員】

先ほどの質問に重複しますが、南区の大きな事業であるいきいきふれあい南なんデーと文化祭についてです。資料では開催を予定しているということで、準備を進めているのかも知れませんが、開催について、どのようにお考えですか。

【永峯福祉保健課長】

いきいきふれあい南なんデーについてお答えいたします。いきいきふれあい南なんデーは、例年10月の第一日曜日に、大岡健康プラザの屋内で開催するイベントで、去年、おとしは、約1万人の方が来場されました。出店者や実行委員の方々から、様々なご意見を伺っていますが、現在、実

発 言 の 旨
要

行委員長を中心に検討をしているところです。出店者の方がそろそろ準備に入る時期ですが、開催は難しいという意見もありますので、状況を見ながら決めていきたいと思います。

【姫浦地域振興課長】

文化祭につきましては、例年、9月から準備が始まりますが、近日中に、実行委員会で開催の可否を決定していただくと聞いております。

【渋谷議員】

おそらく、実行委員会を開催すること自体が難しい状況であると思えます。このあとの状況がどうなるかわかりませんが、万が一のことがないように、慎重に進めていただきたいと思います。

同じく、19ページに書かれている地区懇談会のことですが、これも、今のところ開催するということのようにです。私個人の感想から言えば、無理をして今秋に開催する必要があるのかということです。通常であれば、来年は4月に開催することになるのでしょうか。やり方を変えて、密にならないようにやるとするのであれば、町内会長だけを集めるという方法もあると思えますが、それではあまり意味がないのではないのでしょうか。長年続けて来たから形式的に開催するというようなことではなく、その時の置かれた状況というのをきちんと判断して開催したほうがいいのではないかと思います。そもそも、秋に開催すると言っても、期間が1か月半とか2か月かかるのでしようから、そろそろ決断をしなければいけないと思えますが、どのようにお考えですか。

【姫浦地域振興課長】

地区懇談会は、現段階では、開催を秋に延期するという事になっていますが、今、先生がおっしゃったとおり、通常どおりの方法では、密集した状況となるので、開催は厳しいと思えます。今後、地域と相談しながら、検討していきたいと思っております。

【渋谷議員】

開催する、しないというのは誰が決めるのですか。

【姫浦地域振興課長】

地区懇談会は連合町内会の主催ということですが、区役所としまして、どのような形で開催するのが好ましいのか、お話をしながら決めていきたいと思っております。

【渋谷議員】

この秋の状況は誰にもわからない訳で、このままコロナウイルスの感染が収束していくこともありますし、また第2波ということもありますので、そこは冷静に判断をしていただければと思えますので、よろしく願いいたします。

【荒木議員】

職員の皆さん、時差出勤や交代勤務に取り組んでいただき、本当にありがとうございます。先ほど仁田議員からも質問がありましたが、私からも減災について伺います。

南区は、ご存じのように崖地が多く、自宅にいると危険な方がいらっしゃるのです。その方たちが、どこに安全に避難をするのかを考えなければなりませんし、昨今の異常気象の中では、熱中症対策もしなくてはならないと思います。また、そのような地域には一人暮らし高齢者の方たちも多いので、南区独自の防災対策、避難対策を改めて見直していかないとはいけません。異常気象による集中豪雨への備えは、ご本人たちだけの努力ではできないこともあると思いますので、行政側から何らかの対応を発信していかないとだめだと思います。仁田議員もおっしゃったように、今も見直しはしていると思いますが、改めて区として、地域特性に合った避難計画の見直しをしていただきたいのですが、どのように考えていますか。

【森田総務課長】

ありがとうございます。南区の場合、災害時要援護者の方もかなり多いですし、最初に先生がおっしゃったように崖地も多いので、区役所としても、ご近助講座などでは、できるだけ地域特性や地形等に合ったお話をさせていただいています。今は、完全な形で避難ができることと明確に言えるようなことはないのですが、少しでも住民の皆さんへの意識啓発に、区役所として取り組んでまいりたいと思っています。

【荒木議員】

言葉はきついかも知れませんが、もう時間的に猶予はなく、いつどうなるかわからないので、重点地域だけでも、改めて地域の皆さんに避難方法の徹底をお願いしたいと思います。

それから、16ページのすこやか子育て支援事業ですが、緊急事態宣言や外出自粛が解除されましたが、先般の新聞報道で、横浜市も神奈川県も虐待件数が過去最高になったという記事を読みました。保育園の方たちからも、ちょっと心配なお子さんがあるが、今は職員が訪問するのなかなか難しいという話があります。他の県から異動した方の連携も取れなくて、虐待で亡くなったという事件も他都市ではありました。南区役所は中央児童相談所が近いので、連携が取れていると思いますが、こういう状況になると、虐待ケースを訪問するのにも、かなり苦労していらっしゃると思います。現在の状況は、少し改善されたのか、それとも増えているのか、お伺いします。

【戸矢崎こども家庭支援課長】

外出自粛期間中の児童虐待の相談件数に関しては、実は増えてはおりません。逆に減っている状況です。おそらく背景には、一般の子育て家庭の方のご両親が在宅となり、子育てを担う方がそばにいるというところで、負担軽減になった部分があったのかと思われます。ただ、逆に、私たちが継続的に関わっている虐待リスクの高い方については、保育園ではご希望があれば対応することになっていきましたが、親御さんが感染症を心配し

発 言 の
要 旨

て、保育園の登園を控えたケースが結構ありました。そういう場合には、家庭訪問や電話で継続的に連絡を取って、状況を確認させていただきました。また、国レベルでもアクションプランということで、各施設で状況を確認して、相互に確認する連携を強化してまいりました。このように、継続的に関わっている方には、関係機関との協力により乗り切ってきたように思います。また、他都市から転入した新規の方についても、児童相談所とも継続的にやり取りをしながら、積極的にアプローチを行ってきた次第です。

【荒木議員】

安心しました。学校が再開して、子どもにも保護者の不安定な気持ちが伝わって、なかなか授業に身が入らないという話も聞いています。教育委員会も現場に行ってくださいっていると聞いてるので、引き続き、連携をお願いします。

最後に、特別定額給付金の件ですが、給付金は申請をしないと受給できない訳ですが、大事に申請書を持っている人もいないかと思いません。市民局にはまだ聞いていないのですが、申請しなかった人のデータは、最終的に区役所に返って来るのでしょうか。

【森田総務課長】

定額給付金に関しましては、9月10日が締切となっていますので、それまでに申請していただかなければなりません。また市民局では、まず市連会と区連会で、定額給付金について周知をする予定と聞いています。南区も、6月19日の区連会で、定額給付金のご案内をさせていただきます。

【荒木議員】

申請書を大事に持っている人もいないかと思いません。介護保険でもそうですが、郵送された書類を皆さん結構大事に持っていて、そのままにしておけばいいと、間違える人も中にはいるのではないのか気になります。それについては、こちらで調べてみます。ありがとうございます。